

令和6年度 東京情報大学総合情報研究所プロジェクト研究
研究実績報告書

1. 研究課題名

学生中心課題解決プロジェクト「ビジネス AI ラボ」

2. 研究組織

区分	氏名	所属・職名
研究代表者	藤原 丈史	総合情報学部 総合情報学科・准教授
研究分担者	マッキン ケネス	総合情報学部 総合情報学科・教授
	池田 幸代	総合情報学部 総合情報学科・准教授
	秋元 大輔	総合情報学部 総合情報学科・准教授

3. 研究期間

2024年4月1日～2025年3月31日

4. 研究の目的

共創ラボ内の研究グループとして学生中心課題解決プロジェクト「ビジネス AI ラボ」を実施する。ビジネス AI ラボでは、ビジネス分野における様々なサービスや事業において AI を活用することにより新たな価値の創造を提案する。

地域の企業であるモノテクノスとの産学連携を通して、企業が抱える実際の課題を学生中心の課題解決型プロジェクトとして、課題の原因究明、解決方法の提案、開発、実施、評価および改善までを実施する。

5. 研究報告

モノテクノス産学共同開発として、以下を実施した。

開発テーマ：新しい無人店舗の提案

開発目的：1) 学生チームによる IoT と AI を用いた新サービスの提案

2) 2025年10月の CEATEC 出展を目指す

※CEATEC は日本最大級のテクノロジー 総合展

共同開発実績

2024/7/11 モノテクノスによる産学共同開発に向けたレクチャー実施

2024/8/21 モノテクノスによるビジネスコンテスト向け課題説明会実施

2024/9/26 モノテクノスに対して開発進捗報告とフィードバック

2024/10/17 モノテクノスに対して開発進捗報告とフィードバック

2024/10/26 東京情報大学ビジネスコンテスト「モノテクノス賞」参加

2024/11/21 モノテクノスに対して CEATEC 展示計画提案

また、共創ラボ全体の研究成果発表として国際会議 Thirtieth International Symposium on Artificial Life and Robotics 2025 (AROB 30th 2025)にて企画セッション Co-creation in research and education を企画・実施し、7件の発表があった。

6. 成果の公表

研究成果の公表として以下の公表を行った

1. Daisuke Akimoto, "Japan's AI Diplomacy", The Diplomat, April 26, 2024, <https://thediplomat.com/2024/04/japans-ai-diplomacy/>
2. Kenneth J. Mackin, Takeshi Fujiwara, Yukiyo Ikeda, Daisuke Akimoto, "Co-creation in inclusive design -developing an audio-based typing game-", Proceedings of the Thirtieth International Symposium on Artificial Life and Robotics 2025 (AROB 30th 2025), pp.1168-1170, International Society of Artificial Life and Robotics, January 23, 2025, ISBN978-4-9913442-1-3, ISSN2185-3797

7. 総評

実企業からの課題に対し、学生らは予想以上に活発に調査・提案・プロトタイプ作成を行い、ビジネスコンテストまでには十分な形での提案を行えた。

モノテクノスとの共同開発において、学生から合計4件の企画提案があり、今後は CEATEC での共同開発発表を目指し、共同開発を続けていく。